

普及活動情勢報告（平成 31 年 1 月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

厳寒期は炭酸ガスで収量アップ！ ～JA高知県あき東支所管内一斉巡回～



「炭酸ガスをやったら
ナスの収量がアップしますよ」

12月11日と12日に、農業改良普及課はJA高知県あき東支所とJA高知県安芸営農経済センター営農指導課と連携し、安芸市の川北、伊尾木、下山の3地区のナス農家42戸を一斉に個別巡回し、厳寒期の栽培管理や病害虫管理、環境制御技術について指導・周知しました。

今回は、JA出荷をしていない生産者を中心に巡回したことで、各地区の状況をこれまで以上に把握することができました。また環境制御技術について理解を示す生産者も多数おり、「炭酸ガスをやってから収量は伸びた」といった声も聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、部会や研究会活動だけでなく、個別巡回指導などを通じて環境制御技術の普及を進め、ナスの産地振興を図ります。

難防除害虫対策についての知識を高めよう ～奈半利支部園芸研究会勉強会～



熱心に説明を聴く生産者

12月21日、奈半利支部園芸研究会がJA高知県奈半利支所で勉強会を開催し、生産者8人が参加しました。

農業改良普及課は、カブリダニ類の利用が低下傾向にあることから、奈半利町のナスほ場で発生したナミハダニの特徴や天敵のカブリダニ類について紹介し、天敵を主体としたIPM技術について説明しました。

生産者からは「スワルスキーはハダニを食べないの？」、「無加温のハウスでも天敵のカブリダニ類は使用できるの？」といった質問があり、天敵利用について理解を深めることができました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、部会活動を通じてIPM技術を普及します。

直販所活性化セミナーを開催しました ～海の駅東洋町～



農産物は品目毎に置くだけで
すっきり見えて、売上アップ！！
生産者からも好評。

12月21日、直販所活性化セミナーが東洋町役場で開催され、海の駅東洋町のメンバー3人が出席し、店内レイアウトや集客アップのためのイベントの誘致方法・告知方法を学習しました。

農業改良普及課が、消費者目線のレイアウトに改善するように指導したことで、農産物の陳列の仕方が生産者単位で置いていたものから品目単位に置くように変更されました。

また、セミナーを通じて4月に開催されるバイクツーリング関連イベントに協賛することで海の駅東洋町をPRすることになりました。

農業改良普及課は、今後もレイアウト案の作成や4月のイベント企画について支援し、直販所の活性化を推進します。

東洋町の野根川の水と米を使い天然アユに合う酒造りを目指す
～東洋町野根川プロジェクト～



先進地調査した東洋町の生産者

東洋町では平成28年より、地域再生計画の取り組みとして野根川の自然を守るプロジェクトを行っています。この一環として野根川流域の水と米で酒を造りたいという動きがあり、12月25日、東洋町役場に9月に先進地視察した地元農家や酒造会社を含む関係者6人が集まり、酒米「吟の夢」の栽培検討会を行いました。

農業改良普及課室戸支所は、酒米「吟の夢」の栽培方法について説明しました。

生産者からは「初めての栽培で心配なことも多いが、挑戦したい」と意欲ある発言がありました。

農業改良普及課室戸支所は、土づくりから収穫まで適期を捉えて栽培指導し、良質な酒米が生産できるように支援します。

地域内農家に追いつけ追い越せ！ ～新規就農者への巡回指導～



厳寒期の栽培管理について
説明を聞く新規就農者（右）

農業改良普及課では経営支援チームと栽培指導チームにより就農3年目以内の新規就農者を個別に支援しています。

12月27、28日に、JA高知県安芸営農経済センター営農指導課と農業改良普及課による栽培指導チームで対象となる6人のナス栽培ほ場を巡回し、厳寒期の栽培管理をテーマとして、整枝・摘葉方法やかん水管理、温湿度管理による結露対策や病害防除について指導しました。一部の新規就農者では病虫害の発生が目立ちましたが、ほとんどの新規就農者は概ね順調に栽培できていることが確認できました。

新規就農者からは「今年から炭酸ガス施用を始めたが早速効果を感じている」といった前向きな意見も聞かれました。

農業改良普及課は、今後も経営支援チームと栽培指導チームで情報共有し、新規就農者を支援します。

今年もがんばってユズを作っていこう ～柚子部東川支部勉強会～



今年のユズ栽培のポイントを説明

1月15日、JA高知県安芸地区柚子部東川支部が東川農林センターで勉強会を開催し、生産者13人が参加しました。

農業改良普及課からは、2018年産ユズの作柄概況と、今年の栽培管理の注意点について説明しました。

生産者からは、「去年いっぱい実が着いちゃったき、剪定を軽めにする」といった意見や「歳とったき、作業が大変」といった冗談とも言えない声も聞こえました。また、東川支部の生産者の中には、昨年7月の豪雨災害によりユズ園に甚大な被害を受けた方も多く、「冠水した樹が近いうちに枯れるがやないか」といった心配の声が出ています。

農業改良普及課は、豪雨災害によるユズ園の経過を把握するとともに、関係機関と連携してユズ園の早期復興を支援します。